

コード理論メモ

ピアノ弾き語り練習を始めて、コードについて調べたメモを残す。

音名

「ドレミ…」は元々はイタリア語での発音。あとドイツ語もあるが省略。

音名	備考
ドレミファソラシ	イタリア語
□□□□□□□	英語
ハニホヘ トイロ	日本語

コード（和音）

3和音

「triad(トライアド)」とも呼ばれる。

記号	読み方	構成	備考
major,△	メジャー	長3度+短3度	基本形
m	マイナー	短3度+長3度	真ん中の音を一個左へ半音下げる
aug,#5,+5	オーグメント	長3度+長3度	右の音を半音上にずらす
dim,m♭5,m-5	マイナーフラットファイブ	短3度+短3度	mの右の音を半音下にずらす
sus4	サスフオ□,Suspended 4th		真ん中の音を一個右に半音上げる

- 長3度はその鍵盤を含んで5つ分 - 短3度はその鍵盤を含んで4つ分 - 1度の音程とはその鍵盤の事

4和音

記号	読み方	構成	備考
7	セブン	長3度+短3度+第7音 =長3和音+短7度	ルートの全音下の音を右に持っていく追加
m7	マイナーセブン	短3度+長3度+第7音 =短3和音+短7度	ルートの全音下の音を右に持っていく追加
M7	メジャーセブン	長3度+短3度+第7音 =長3和音+長7度	ルートの半音下の音を右に持っていく追加
dim7	ディミニッシュ・セブン	短3度+短3度+第7音 =減3和音+減7度	mの右の音を半音下と全音上に分裂
m7♭5	ハーフ・ディミニッシュ		dim7の右の音を半音上げる m7の第5音を半音下げる
6	シックス		右の音の全音上の音を追加
add9	アドナイン		ベースの全音上の音を加える

スケール（音階）

メジャースケール

長音階□Major Scale□

□□□□□□□
全全半全全全半

- - -

マイナースケール

短調では通常「自然短音階」を基本として考えるが、実際の音楽作品では「和声短音階」が多い。又、変化は調号ではなく臨時記号で表す。

自然短音階□Natural Minor Scale□

□□□□□□□
全半全全半全全

和声短音階□Harmonic Minor Scale□

自然短音階から7番目を#

□□□□□□ □
全半全全半増2度半

旋律短音階□Melodic Minor Scale□

自然短音階から6番目と7番目を#

□□□□□□□
全半全全全全半

ダイアトニックコードスケール

メジャーダイアトニックコード

Cメジャーの例

三和音

C Dm Em F G Am Bm-5
 □□□ □ □ □ □□□
 □ □ □□□□□□ □□□主要三和音
 □ T □ □

- I□C□ IV□F□ V□G□を主要三和音とよび、その他を副三和音と呼ぶ。 - V□G□の和音は通常は“7thコード”を使う。□Cメジャーの例では□G7□ - I□C□は主和音と呼ばれ調のリーダー、どのコードへも進行できる□ - IV□F□はI□C□へもV□D□へも進行できる□ - V□G□はI□C□ or VI□Am□のみに進行する。（「ドミナントモーション」と言う） - II□Dm□は必ずV□G□へ進行する。（「ツーファイブ」と呼ぶ）

四和音

CM7 Dm7 Em7 FM7 G7 Am7 Bm7♭5

マイナーダイアトニックコード

Cマイナーの例

ナチュラルマイナー 三和音

Cm Dm♭5 E♭ Fm Gm A♭ B♭

ハーモニックマイナー 三和音

Cm Dm♭5 E♭aug Fm G A♭ Bm♭5

メロディックマイナー 三和音

Cm Dm♭5 E♭aug F G Am♭5 Bm♭5

ナチュラルマイナー 四和音

Cm7 Dm7♭5 E♭M7 Fm7 Gm7 A♭M7 B♭7
 T S T S D T D

- Om7 Om7♭5 OM7 Om7 Om7 OM7 O7

ハーモニックマイナー 四和音

CmM7	Dm7 $\flat$ 5	E $\flat$ M7+5	Fm7	G7	A $\flat$ M7	Bdim
T	S	T	S	D	S	D

- $\bigcirc$ mM7 $\bigcirc$ m7 $\flat$ 5 $\bigcirc$ M7+5 $\bigcirc$ m7 $\bigcirc$ 7 $\bigcirc$ M7 $\bigcirc$ dim

メロディックマイナー 四和音

CmM7	Dm7	E $\flat$ M7	F7	G7	Am7 $\flat$ 5	Bm7 $\flat$ 5
T	S	T	S	D	T	D

- $\bigcirc$ mM7 $\bigcirc$ m7 $\bigcirc$ M7+5 $\bigcirc$ 7 $\bigcirc$ 7 $\bigcirc$ m7 $\flat$ 5 $\bigcirc$ m7 $\flat$ 5

コード進行

第1 カデンツ T-D-T

Ex $\square$ C G C,
 $\square\square$ C G Am, Am G C, Am G Am

第2 カデンツ T-S-D-T

Ex $\square$ C F G C,
 $\square\square$ C Dm G C, C Dm G Am, Am F G C

第3 カデンツ T-S-T

「アーメン終止符」と呼ばれる。

I $\square$ IV $\square\square$ IV $\square$ のパターンのみ
 Ex $\square$ C F C, Am F C

連用

トニック、サブトニックのコードを続ける使い方を「連用」と呼ぶ。

Ex $\square$ C Am F Dm G C
 $\square\square\square\square\square$

- トニックの連用では<I $\rightarrow$ VI>の進行は $\bigcirc\square$ <VI $\rightarrow$ I>の進行は $\times$

Ex $\square$ C $\rightarrow$ Amは $\bigcirc\square$ Am $\rightarrow$ Cは $\times$ -サブドミナントの連用では<IV $\rightarrow$ II>の進行は $\bigcirc\square$ <II $\rightarrow$ IV>の進行は $\times$

Ex $\square$ F $\rightarrow$ Dmは $\bigcirc\square$ Dm $\rightarrow$ Fは $\times$

ドミナントの可能性

ⅦとⅦを結合させたⅦ7で、ドミナントがパワーアップ。
Ⅶの代わりにⅦ7thがよく使われる。

Ex G + Bm-5 → G7

単語・用語

- diminish 減らす、縮小する - augment 増加させる、増大する - suspend つるす、つり上げる - Tonic 主音、安定 T と表記
- Sub Dominant 発展する、やや不安定 S と表記
- Dominant 支配する、不安定 D と表記
- 導音：第7音のこと。主音に導く音。
- ボイシング：コード（和音）の構成音の並べ方

参考

1. ミュジオリ－音楽理論 2. ドレミファソラシドをアルファベットで覚えよう！

From:

<https://www.yokoweb.net/dokuwiki/> - 新石器Wiki

Permanent link:

<https://www.yokoweb.net/dokuwiki/music/code-memo?rev=1497787888>

Last update: 2017/06/18 21:11

